

# 寅さん歩 その14

## 東京に こんなところ-3



平野 武宏

徳川幕府の江戸から明治維新、そして関東大震災・太平洋戦争の被災で壊滅からの復興、昭和39年（1964年）の東京オリンピックによる街並み・交通網の再整備と首都東京は時代と共にその姿を変えています。そして2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催を控えて東京は更に近代的な姿に生まれ変わろうとしています。

「寅さん歩」で東京を歩き回っている寅次郎、「東京にこんなところもあるのだ！」と思わせる場所に出会い、感動しています。新シリーズとして取り上げ、紹介します。但し、都民暦約4年の「寅次郎基準」で選んでおりますので、ご容赦下さい。

～首都東京のチンチン電車は健在～

### 〔都電荒川線〕

三ノ輪橋停留場(荒川区) ⇄ 早稲田停留場(新宿区)



荒川区・北区・豊島区・新宿区の東京の4つの区を走る路面電車です。都電荒川線では駅を「停留場」と呼ぶと学びました。

「三ノ輪橋停留場」は平成9年（1997年）「愛され親しまれ人々の心に残る駅」として「鉄道の日記念 関東の駅百選」に認定されています。「早稲田停留場」からは早稲田大学北門が近いです。

（車両と停留場は実物よりきれいに撮られています）

今や都内の交通網は山手線・中央線等のJRや私鉄をはじめ地下鉄・バスが縦横に走っていますが、昭和30年代までは都電が主役でした。最盛期の昭和37年(1962年)には41系統の都電が都内を縦横に走っていました。

自動車社会に追い出された形で昭和41年(1966年)都電の段階的廃止の方針が決まり、昭和47年(1972年)2系統を残して姿を消しました。2系統は代替交通機関が未整備で残されましたが、住民の要請と当時の美濃部都知事の「専用軌道が多い残存区間をあえて廃止することはない」との英断で生き延び、昭和49年(1974年)2系統は1系統につなげて「荒川線」となりました。

全長12.2kmの距離を30の停留場を約50分で走ります。(時速約14km)。現在の現金料金は一律170円(ICカード165円)東京都のシルバーパス(70歳以上)では無料です。

路線図のように他交通網との接続も便利になっています。

寅次郎、終の棲家を大塚に決める時、山手線大塚駅を降りて、初めて出会った1両編成のレトロな雰囲気の都電に感動しました。「大塚駅前停留場」は山手線に接続する唯一の駅と知り、「これも何かのご縁だ」と思った寅次郎でした。





写真左は「大塚駅前停留場」で上を走るのが山手線です。山手線大塚駅は右手にあります。止まっている都電は三ノ輪橋行です。

「荒川車庫前停留場」は都電の車庫(写真下左)です。隣には「おもいで広場」(写真下右)があり、活躍した懐かしい車両が保存・展示されています(土日祝見学可)



写真下左はPCCカー5500形(5501号)で説明板には「アメリカの路面電車委員会が開発した製造権を購入、最新の技術を導入、昭和29年(1954年)につくられたもの。独特の流線型の車体と低騒音・高速度の高性能を誇り、1系統(品川駅～上野駅)を昭和29年5月から昭和42年2月9日まで13年間走り続けました」と記載。定員は96人(座席40人)です。

写真下右は旧7500形(7504号車)で「昭和37年(1962年)に製造された7500形20両のうちの1両です。従来の都電とは趣を変えた2つ目のヘッドライトが特徴です。平成10年(1998年)の休止車となる前の数年間は朝ラッシュ時の通学用電車として大塚駅前停留場～町屋駅前停留場を走行し、「学園号」の愛称で親しまれました」と記載。定員96人(座席21人)です。





「学園号」の車内(写真下左右)は展示コーナーもあり、運転台にも座れました。



「チンチン電車」の愛称は車掌が運転手に、あるいは運転手が車掌に合図を送るために鳴らした鐘の音が由来です。昭和53年(1978年)のワンマンカー化で、運転手が発車の合図に「チンチン」と2回鳴らします。走る窓の外の建物の景色は変わっても、首都東京最後の「チンチン電車」は今も走り続けています。写真下左は「飛鳥山停留場」近く、右は「学習院下停留場」近くで、橋の下は神田川です。両停留場近くは桜が見事です。



写真上左は「大塚駅前停留場」近く、春・秋はバラが楽しめます。

写真上右は「都電雑司ヶ谷停留場」近くで、背景は池袋の高層ビル群です。

沿線には史跡や見所がいっぱいあります。又、昔からある桜や沿線の住民で育てているバラの花は東京を代表する花の名所になっています。

寅さん歩 その2 都電荒川線沿線を参照ください。改めて読みなおすと、「寅さん歩の初期の原稿は写真も少なく、読みにくいものになっている」と反省しきりです。いや、「寅さん歩のおかげで上達したのだ」と前向きにとらえる寅次郎です。

寅さん歩 その11 江戸・東京の祭-23 (花の祭-6)、その5 東京の桜 2013、その5-2 東京の桜 2014-2 も参照ください。

## 【こぼれ話】 都電落語会

都電荒川線は年間 1600 万人を超える利用客がありますが、残念ながら 2014 年度は赤字だそうです。都交通局は「お荷物路線だとは全く思っていない。観光路線として黒字化したい」とコメント。

「グループで楽しい都電の旅を！」と車両の貸切サービスを行っています。2016 年 4 月現在の片道 1 回の運行料金は普通 13,800 円、学生（中学生以上）12,290 円、（小学生）7,680 円とのこと

林家こん平事務所では「都電落語会」を開催しています。落語家 林家こん平は難病の「多発性硬化症」で平成 16 年（2004 年）8 月 22 日に倒れ、リハビリの末、落語を中心とした伝統芸術の普及向上を図り、笑いの持つパワーで生きる勇気と希望を与えていく文化・福祉・教育活動に寄与することを目的に都電を貸切、落語会を開催。第 1 回は平成 26 年（2014 年）8 月 22 日。8 月 22 日は都電の日でもあります。平成 28 年（2016 年）6 月で 21 回目とのこと。

片道 3,000 円（シルバー 2,500 円、大学生 2,000 円、子供 1,500 円）往復 5,000 円（シルバー 4,000 円、大学生 3,000 円、子供 2,000 円）。広告をラッピングした車両も走っていました。東京オリンピック・パラリンピックまで行うとのこと。



次回は 東京に こんなところ-4です。

平野 寅次郎 拝